

【 検査 】

774 肺炎マイコプラズマ感染症（診断時）に対するマイコプラズマ抗体定性又はマイコプラズマ抗体半定量とマイコプラズマ核酸検出の併算定について

《令和8年1月30日》

○ 取扱い

肺炎マイコプラズマ感染症（診断時）に対するD012「4」マイコプラズマ抗体定性又はマイコプラズマ抗体半定量とD023「6」マイコプラズマ核酸検出の併算定は、原則として認められない。

○ 取扱いを作成した根拠等

マイコプラズマ核酸検出は、発症早期から陽性となることより早期診断に用いられる検査であり、迅速性にも優れ検出感度が高い。一方、マイコプラズマ抗体は感染から1週間から10日目以降に陽性となる。

以上のことから、肺炎マイコプラズマ感染症の診断時に対するD012「4」マイコプラズマ抗体定性又はマイコプラズマ抗体半定量とD023「6」マイコプラズマ核酸検出の併算定は、原則として認められないと判断した。